

## 令和8年度 浜松市立高等学校第1回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和8年5月14日(木) 15:45～17:00

2 場所 本校応接室

### 3 出席者(敬称略)

学校運営協議会委員(5人): 須賀淳子、金田知久、林左和子、小栗豊人、宮近邦人

学校関係者(9人): 宮崎 正(校長)、谷中成光(副校長)、刑部雅子(教頭)、夏目健一(事務長)  
池谷則秀(浜松市教委)、飯田博之(教務課長)、蔵原 純(生徒課長)  
鈴木 彰(進路課長)、岡本直哉(保健環境課長)

欠席者(1人): 杉浦友治(学校運営協議会委員)

### 4 配付資料

「令和8年度第1回学校運営協議会資料」「いちりつプレス(学校だより)」

「浜松市立高等学校 グランドデザイン」「浜松市学校運営協議会規則」

「浜松市立高等学校いじめ防止基本方針」「ラーケーション」「ブログ記事より」

### 5 協議会の記録(敬称略) 司会:谷中

#### ア 学校運営協議会委員長副委員長の選出

・須賀委員長、小栗副委員長で承認を得た。

#### イ 校長挨拶

4月に369人の新生生が加わって、全校生徒1109名で新年度が無事スタートした。

令和8年度入学者選抜では、公立校の定員割れが話題になり、本校も志願者数は減少した。しかしながら、受検者の質は上がっており、学力試験の平均点は5年連続で上昇している。

日ごろより、生徒達には、「高い志を持つこと」「主体的に行動すること」を期待し伝えている。

高い志を持つことについては、国公立大学の合格者が昨年度177名で、学年のほぼ半数の生徒に当たる。いわゆる難関大学への挑戦をし、成果につながった。今年の部活動のインターハイ等で、より高い目標をもって臨み、成果も出している。

主体的に行動することについては、今年度導入された部活動任意加入制やヘルメットの着用がよい例であるが、「いちりつ生」としてふさわしい、主体的な判断と行動が期待されている。

また、報道にあるとおり、7月をめどにラーケーションが導入される。趣旨が小中と異なり、総合的な探究の時間の充実に向け、より深い学びや将来の進路選択につながる学びの機会と考えている。

次に、現在の学校の様子を紹介したい。学習面でも軌道に乗っており、すでに模擬試験や補習が開始し来週は中間テストである。部活動においても同様で、運動部はインターハイが始まっており、日ごろの練習の成果を発揮しようと試合に臨んでいる。現在すでに、男子テニス、女子テニス、なぎなたの全国インターハイへの出場が決定している。文化部は、文化祭に向けて準備を行っている。放送部、マンドリン、書道、美術、吹奏楽は、今年の全国高校総合文化祭に出場が決まっている。今後の人生で宝となる大切な経験を積んでほしい。

部活のマイクロバスについて、事故のニュースを契機に、県教委からも関連の通知が来た。それに照らして、本校のマイクロバス運用については問題がないものの、今一度の見直しを図っていく。

最後に、この学校運営協議会の主な機能を確認する。学校運営の基本方針の承認、学校運営についての意見、職員の任用についての意見の3つである。本日は特に1つ目の学校運営の基本方針について承認していただくことが目的である。生徒を中心に据え、彼らの健やかな成長につながるように導いていく所存である。

#### ウ 自己紹介(出席者)

## エ 学校経営計画(承認)

・校長より学校経営計画の説明

①グランドデザインの中身は継承し、デザインを一新した。

・3つの土台(他機関との連携、部活動等の充実、教育環境の整備)の上に4本の柱(授業、総合探究、生徒主体、キャリア教育)を立てている。本年度の新たな取組としては、総合探究の中に民間企業との交流・学習の機会を持った。キャリア教育に通ずる大学進学のために、経験豊かな教職員を迎えることができた。

・アドミッションポリシー(目指す生徒の姿)の2つ目は、浜松市の目指す生徒像に沿って文言を変えたが、内容は変化なし。

②学校経営計画書の更新した点

・グローバルリーダーの育成に加えて、地域のリーダーとしても必要とされる学校であるので、「グローバル」という表現を使った。

・ICTについては、ただ使うだけでなく、“効果的な”活用とした。

・スクールポリシー具現化の柱の1つ、進路選択について、“主体的な”進路選択とした。

・海外語学研修等の国際理解教育について、実施して終わりではなく、事後に生徒の発表や表現の場を設け、成果の普及をねらっている。

・図書だよりの発行を具体的に月1回とした。

・防災マニュアルや訓練について、定期的に検証見直しを施す。特に、生徒の主体的な防災意識と対応力の向上をねらいとして、形式だけでなく実用的な防災計画や訓練に変えていく。

**→以上の学校経営計画について、学校運営協議会委員全会一致の承認を受けた。**

## オ 学校からの近況報告(教務、生徒、進路、保健環境)

### 【教務課】

・総合的な探究の時間(浜市総合探究)では、3年間、次のテーマで生徒の成長を図っている。1年生では職業観、2年生では地域、3年生では自己実現。

・現行教育課程の5年目である。定期的に組織的に検証、見直し、変更を行っている。

### 【生徒課】

・規律ある進学校として、挨拶と着こなしを柱に規律を育てている。

・昨年度、生徒会の生徒が主体となって、必要な校則改定を実現させた。休日の部活動のための登下校の服装について、伝統を守ることも大切にしなが、試用期間を設ける、意見を聴取するなどの工夫をした。

・本年度も生徒から意見が出れば取り組んでいく。

・本年度ここまで地区予選が行われたすべての運動部が県大会へ進出している。

・1年生部活動の本登録を終え、全学年で任意加入となった初年度でもあり、動向を見守ってきた。全校で部活動加入率は97.4%である。1年生単独では96.5%で、学年ごとに加入率は下がっている。中学校での地域クラブ化等の影響もある。土日も活動のある部活への入部にためらいがあり、またレベルの高い裁量部活を敬遠する傾向が見られる。

・交通関係では、例年、年度当初は社会全体で新生活への不慣れから数件交通事故が発生するが、ここまで事故報告はゼロである。外部からの交通苦情はある。

### 【進路課】

・進路目標、計画について。1、2年は、模試を柱に、補習や模擬授業などで意識を高める。補習は年次が進むにつれ受講率が高まる。3年生では、模擬試験の頻度が上がる。実力を継続的に試しながら、2、3月の大学入試に向けて力をつけていく。同時に、担任と生徒の面談を重ね、生徒の進路実現を支援していく。

・過去5年間の合格者数等の実績について。例年、約半数の生徒が国公立大学に合格している。昨年度は、共通

テストの難化もあり、志望を落として確実にという傾向があったが、本校は落ち着いて受験校選択ができた。私立もいろいろな学校にチャレンジし、成果につながった。

#### 【保健環境】

- ・生徒、関係者の心身の健康を目的としている。
- ・心の健康については、スクールカウンセラーの相談室を開設している。時間も延長し、利用が増えている。
- ・体の健康について、一例として、オンデマンドの熱中症対策セミナーを PTA に紹介する。学校では1年生対象に講座を開催したが、家庭でも意識を高めてほしいという意図である。

#### カ 浜松市学校運営協議会規則(3・8・10・12・15条説明)

- ・学校運営協議会の目的、学校の運営に関する評価、委員の任期、守秘義務などを中心に読み合わせた。

#### キ 意見交換 司会：須賀会長

(須賀)各委員からご意見をいただきたい。

(金田)資料や説明、学校の様子に説得力がある。高等学校のあり方検討委員会について、静岡市のニュースがあったが、本校は市民からの期待も大きいので、丁寧に協議いただきたい。部活動を例にとっても、中学は秋から地域へ移行が完了し、また、小中学生の減少数が具体的に「□年後に高校△校分の減少が見込まれる」と公表されている。この地域は何校を維持していくのか、国際社会の変化に伴い今後どう産業を作っていくか、そこでどういう人材を育てていくのか、世間の関心は高い。

(林)学校経営について、素晴らしい。北越高校の事故の後、顧問の先生への風当たりが強い。昔ながらの先生の自己犠牲の美談を求めている風潮を感じる。普段から一生懸命部活動を指導・運営しているのに、何かあるとバッシングにさらされる。学校や先生が守られる体制が必要だと感じた。

(校長)教員の働き方改革やマイクロバスのよりよい運用の検証を推進したい。先生方も守られる、生徒も活動できる、そういう体制を整えたい。

(小栗)素晴らしい設備だが、築30年を超え、不具合もある。今後、インフラの再投資が必要になるだろう。

(事務長)浜松市による大規模改修の中長期計画の中で、80年持たせるべく、40年で大規模改修、その後20年ごとにテコ入れしていくという方針である。現在は小規模に手直しをしながら、40年目を目途に大規模改修が計画されているが、1000人の学びを補償しながらの大規模改修はそれなりに時間もかかるの見込まれる。

(宮近)初めてこの協議会に出席し、すべての教育活動がきめ細やかに計画、実施されていることが知れた。中でも、部活動任意加入化の中、加入率97%は意欲的でよい。防災訓練を生徒が主体的に身の回りや世界のことを調べ考える機会とすることには意義がある。

(須賀)先生方が忙しい。仕事を減らすということが難しい。授業はもちろん大切、それ以外をスリム化したいが簡単ではない。県立の高校ありかた会議に出たが、今2歳の子どもが高校生になるころには15歳人口が激減する。学校をなくすことは、簡単なことではない。2クラス規模の高校は、どのような運営になるのか想像を絶する。そのような変化が予想される中で、本校への地域からの関心は高い。40人の教室がそのままいいのか、探究、対話的な学びに変わっていく中で「黒板に向かって一斉に机が並んでいる」教室でいいのか。

現在の恵まれた環境を提供している先生方の苦勞を察する。互いの授業を見学するなど、先生方の研鑽も常に行われている。教育課程の見直し、教科書が変わり、多くの教科書から生徒にふさわしいものを選ぶ、外からは見えない部分がたくさんある。先生方の日々の研修のたまものである。優勝旗ばかりが成果ではない。感謝する。

#### ク 連絡事項

- ・今後の学校運営協議会の予定の確認。第2回10月28日(水)午後、第3回2月4日(木)午後。